

# 毎日新聞 埼玉県版 2017年2月14日(火)掲載

## 危険な場所地図化 事件事故を防ごう 朝霞・第十小で児童ら

子供たちが学校周辺の危険な場所を自覚するとして、事件・事故の未然防止につながる「地域安全マップ教室」が12日、朝霞市の市立第十小学校（矢田敷子校区）であり、1〜6年生計25人が参加した。

同小の「子どもたちの会」と、地域の防犯・防災・交通安全意識の向上を図る「たいじょうが」キャンペーン実行委員会（事務局・毎日新聞社）の主催イベント。同教室は、犯罪社会を専門家で立正大学の小宮信夫教授が講義したプログラム。この日は同大の半生が指導員となり、児童たちと同小周辺や路地裏を歩いて調査し、危険な場所を方々に

収めた。校外での調査から教壇に戻った児童たちは、横道紙に書いた地図に、「公園への」入口が一つだから、歩道から中へはいりにくいので（不審者の出入りが見つけやすい）安全です。（一方、やねで隠れる場所があり）児童たちがのびのびとしゃべりながら安全な所と危険な所もありました。なぞと書いたコマ



自分たちで撮影した写真にコメントを添えてマップを作る児童たち＝朝霞市の市立第十小で

ントを添えた写真を振り付け、マップを完成させていた。参加した児童の一人は「危険、安全などこころが学校の近くにあることが分かった。これからの登下校に役立ちます」と語った。  
【橋本政明】